

私は2年次生の秋から1年間、ロンドン大学・アジア・アフリカ研究学院 (School of Oriental and African Studies、略称 SOAS) で派遣留学生として勉強してきました。SOASは名前にもある通りロンドンに位置し、市街地へも簡単にアクセスできる場所にあります。

私がSOASを選んだ理由は、ここが開発学 (Development Studies) で有名だったからです。国際協力に関心のあった私はSOASで開発学の学部授業を受けて見たいと思い留学を決意しました。実際授業が始まってみると行く前からの心配は現実となり、授業についていけない日々が続きました。イギリスでは大学のレベルは非常に高く、予習や自主学習をしていかなければついていきません。授業ごとにリーディングリストというものが配られ、次回の講義までに読んでこななければならない本の書名とページ数が記載されています。大きな講義は開発学 2 つと日本文化の授業の合計 3 つなのですが、1 教科で毎週 100 ページくらいはあるのでトータル 300 ページ読まなければいけないと言っても過言ではありません。私は気が遠くなり、すべて読み終えて授業に望んだことは恥ずかしながら 1 度もありません。リーディングパックというものが教科によっては販売されており、読まなければいけないページがすべて 1 冊の冊子となって学期ごとに購入できる場合もあります。それが無い場合、あるいはそれ以外にも指定された書物がある場合は図書館で本を借りたり、コピーしたりして利用できます。図書館はこのリーディングのためと、エッセーを書くためのリファレンス確保のためによく活用しました。

SOASの図書館は四角い構造で真ん中が正方形に吹き抜けになっています。どの階からも、書物の陳列が見え、6 フロアある中でアジア・アフリカの地域ごとに区分されて書物が並べられてあるので非常に本を探しやすいです。同じ本が数冊しかないの、同じ書物を必要とする場合に先に借りられてしまったときは苦労しました。また、視聴覚教材を使うスペースもあ

り、書物検索専用のパソコンは各階に設けられています。貸し出し・返却は学生のIDカードで自らも行うことができ、列が混雑しているときはとても便利です。次に同じ本を予約している人がいなければ、返却期限間近になってインターネット上で貸し出し期間の延長も行え、また本の貸し出し予約もネット上で可能です。期限が切れてしまうと、一日単位で 1 冊ずつに罰金が生じるのでエッセー期間など大量に本を借りるときは要注意です。



以前かなりの金額を払っている人を見かけたことがあります。本のコピーももちろんできるのですが、ここではコピー専用のカードを作成し、それにお金を入れ、コピー機、あるいは図書館外でのパソコンからの印刷に利用します。A4 が 1 枚 10 円で日本とそれほど変わらない価格で印刷可能です。エッセーの時期には特に図書館を利用する人が増えますが、ここは常に静かで勉強にはうってつけです。

図書館は特に必要がなくても見ているだけでいろいろな発見があります。勉強に疲れたときなどで本棚の間を潜り抜けながら面白そうな本を探してみるのもいいのではないのでしょうか。大英博物館にも図書館があるのですが、ここは非常に大きく開けた場所で 1 度訪れてみる価値ありだと思います。図書館で勉強している人の姿を見て、私もがんばらなければと刺激を受けることもよくあります。ロンドンへ留学、あるいは訪れた人はぜひ学生のひと時を図書館で十分に味わってみてください。

英米語学科 4 年次生 たかはし のりこ